



広島大学光り輝き入試の「選抜のポイント、面接等の出題例等」

令和6年度総合型選抜・学校推薦型選抜実施学部の事例

※1 以下は、令和6年度広島大学光り輝き入試（令和5年度実施）がどのように行われたかについて、学部・学科等の募集単位ごとに選抜のポイントや出題例を示したものです。次年度の広島大学光り輝き入試が、以下のように行われるということではありませんので、ご注意ください。

※2 本文中又は学部・学科等の名称の後に入学者選抜方式が記載されていない場合は、総合型選抜の内容を示しています。

総合科学部 総合科学科

【一般型】

<第1次選考>

第1次選考は、出願書類（調査書及び自己推薦書）について、それぞれ「評価のポイント」を定め、段階評価により総合判定を行った。

<最終選考>

最終選考では、受験者は最初に講義を聴き、その後、講義の内容について「小論文」を作成した。この「小論文」には、日頃から授業等を通じて、読解力、論理的思考力、文章構成力と表現力などの養成が求められる。「面接」は、総合型選抜の「アドミッション・ポリシー」に基づいた総合科学科生としてふさわしい学生の選考を目的に、受験者個別に約20分の面接を実施した。

最終選考の合否判定は、「小論文」と「面接」の合計点に出願書類（調査書及び自己推薦書）の評価を加味した総合判定で行った。

【サイエンス研究評価型】

<第1次選考>

第1次選考は、出願書類（調査書、自己推薦書、研究実績に関する資料及びプレゼンテーション資料一式）に基づき、段階評価により総合判定を行った。

<最終選考>

最終選考では、受験者は約5分間で自身の研究実績についてプレゼンテーションを実施した後、プレゼンテーションの内容について質疑応答を行った。基礎的知識・コミュニケーション力・課題発見力・問題解決力・論理的思考力・プレゼンテーション力（表現力）を評価し、総合型選抜の「アドミッション・ポリシー」に基づいた総合科学科生としてふさわしい学生の選考を目的に実施した。

最終選考の合否判定は、「プレゼンテーション（研究発表）と質疑応答」による評価に、出願書類の評価を加味した総合判定で行った。



総合科学部 国際共創学科

総合型選抜 IGS 国内選抜型

< 第1次選考 >

第1次選考は、出願書類（自己推薦書（英語で記述）、英語民間試験の成績証明書等及び学業成績・各種試験結果証明書）に基づき、段階評価により総合判定を行った。

< 最終選考 >

最終選考では、第1次選考の合格者に対して、英語による直接面接を行った。

受験者は、社会的（Social）、国際的（Global）、科学的（Scientific）な課題を理解し、自分自身のアイデアを論理的かつ説得力をもって英語で説明することが求められる。

また、社会で活躍する上での適応力や創造性を示すことも求められる。

最終選考の合否判定は、面接結果の総合評価に、出願書類（自己推薦書（英語で記述）、英語民間試験の成績証明書等及び学業成績・各種試験結果証明書）の評価を加味した総合判定を行った。



文学部 人文学科

<方針>

文学部で実施する広島大学光り輝き入試総合型選抜Ⅱ型は、志望する専門分野に特化した課題図書に基づく小論文、面接及び大学入学共通テストを課す選抜方法である。早くから専門分野に深い関心を持ち、研究に対する強い意欲を持っていることに加えて基礎学力を問う。

<実施内容>

小論文では、16の各専門分野があらかじめ指定する課題図書は多岐にわたるが、事項の説明、解釈等を論述させることにより思考力・判断力・表現力などを問うた。

面接は個人面接を実施し、文学部人文学科全般及び各専門分野の勉学に対する意欲や関心、大学での学生生活全般や研究活動への適性を中心に評価した。



教育学部 第一類（学校教育系）初等教育教員養成コース

＜面接試験・プレゼンテーションのポイント＞

1人あたり約20分の個別面接（プレゼンテーションを含む）を実施した。

「準備室入室→プレゼンテーションのテーマを知る。準備室でプレゼンテーションの準備をする。→試験室入室→プレゼンテーションの実施と質疑応答→志願時に提出された課題レポート及びその他の事項についての質疑応答→退室」

プレゼンテーションは、「学び合うことの大切さ」というテーマについて、小学生にわかるように伝えるという想定で行った。

総合型選抜の「アドミッション・ポリシー」に基づいて初等教育教員養成コースにふさわしい学生を選考する。

教育学部 第一類（学校教育系）特別支援教育教員養成コース

＜小論文＞

特別支援教育や教育全般、社会問題に関連したテーマをもとに、そのテーマに対する問題意識や自分の考えを論述形式で解答する問題を課した。

＜面接試験・プレゼンテーションのポイント＞

1. プレゼンテーションの準備（約25分）：面接準備室

面接準備室で課題用紙等を使用してプレゼンテーションの準備を求めた。

2. プレゼンテーションと面接者との質疑応答（約20分）：面接試験室

課題について持っている意識や意見、アイデア等をまとめた課題用紙をもとに、口頭でのプレゼンテーションを課した（約10分）。その後、プレゼンテーションの内容に関して面接者との質疑応答を行い（約10分）、問題意識、創意・工夫力、想像力、プレゼンテーション力、特別支援教育や関連する事項への関心等を多面的に評価した。

3. 一般面接（約5分）：面接試験室

最後に、本コースの志望動機等に関する質問を行った。

教育学部 第二類（科学文化教育系）自然系コース

＜小論文＞

理科に関する基礎学力、思考力、表現力などをみる小論文及び論述形式の問題を課した。

＜面接試験・プレゼンテーションのポイント＞

準備室及び試験室2室において受験者1人ずつに対して以下の順序及び内容により試験を実施した。

1. プレゼンテーションの準備（15分）：準備室

自然及び自然科学に関する課題について、A4用紙に資料を作成してプレゼンテーションの準備をする。

2. プレゼンテーションと口頭試問（15分）：試験室A

作成した資料をプロジェクターで提示しながら、プレゼンテーションを行う。その後、プレゼンテーション内容に関する質問に回答する。



3. 一般面接試験（15分）：試験室B

自然や自然科学及び科学教育に対する関心や考え方に関する質問に加えて、志望理由や大学生活に対する期待などについての質問に回答する。

教育学部 第二類（科学文化教育系）数理系コース

＜課題レポート＞

数学についての課題レポートや調査書、自己推薦書などの出願書類により第1次選考を行い、4名に絞り込んだ。特に、最も重要である課題レポートでは、学生募集要項に記載されたように、A4用紙片面4枚以内で、数学の内容に関する探究課題を自分で設定して記述することを求め、以下の観点をポイントにして評価を行った。

1. 展開されている議論が数学的に妥当かどうか。
2. 単に調べたものを羅列しているだけではなく、オリジナルな考察が行われているかどうか。
3. 簡潔に記述されているかどうか。

数学の内容ではなく、授業実践の提案に近いレポートも見られたが、これは我々の意図に沿うものではなかった。また、高校の数学科の内容を超えるものも散見されたが、到底、本人が理解しているとは思えない記述もあり、まずは内容を理解した上で、自分自身の視点からの捉えを述べてほしかった。

最終的には、大学入学共通テストの成績に基づいて、3名を合格とした。

教育学部 第二類（科学文化教育系）技術・情報系コース

総合型選抜の「入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」に基づき、筆記試験と面接を行った。

＜筆記試験のポイント＞

中学校の技術科と高等学校の情報科に関する生活や社会の事象を題材とした論理的思考力や問題解決力などを問う論述形式の問題を課し、基礎的・基本的な知識・技能と思考力・判断力・表現力を評価した。

＜面接（プレゼンテーションを含む）のポイント＞

2つの個人面接を行った。各面接は1人あたり15分程度で実施した。下記の内容から、思考力・判断力・表現力と主体性・協働性を中心に評価した。

1つ目の面接では、技術・情報に関連する内容についてのプレゼンテーションを行ってももらった後、技術的・情動的素養に関する質疑応答を行った。

2つ目の面接では、志望動機や入学後の大学生活に対する考え、技術・情報教育に関する内容について質疑応答を行った。

教育学部 第二類（科学文化教育系）社会系コース

＜面接試験・プレゼンテーションのポイント＞

高等学校地理歴史科・公民科の学習成果をふまえた課題を与え、資料を提示してプレゼンテーション形式の面接を個別に行った。



具体的には、面接準備室に受験者を1人ずつ呼んで、面接試験開始30分前にプレゼンテーションのための課題が書かれた資料を渡し、それを熟考させ、準備してもらう（移動時間を考慮して29分間）。その後、受験者を面接試験室に移動させて、課題に対するプレゼンテーションを半分程度の時間を割いて行わせ、残りの時間で発表内容について面接員と質疑応答を行い、知識の理解度と考察の表現力を中心に評価した（14分間）。

教育学部 第三類（言語文化教育系）国語文化系コース：学校推薦型選抜

＜小論文＞

国語に関する基礎的な力、特に、国語文化をテーマとした文章を分析的に読む力と、その読みをもとに自らの考えを深め、それを文章で表現する力を問うた。

＜面接試験＞

本コースの「アドミッション・ポリシー」を踏まえ、提出された調査書・推薦書及び志望理由書をもとに個人面接（約15分）を行った。面接試験では、国語文化とその教育に対する関心・意欲について、ア）これまでの学習状況、イ）言葉とその文化に関する関心・問題意識、ウ）中等国語科教育に携わる者としての意欲・態度、エ）論理的な表現力・話し方を観点として、評価を行った。

教育学部 第三類（言語文化教育系）英語文化系コース

＜小論文のポイント＞

広く教育に関わる英文を素材にして、まずは英文の趣旨を的確に理解できているかを記述式問題で問うた。さらに実際の英語教育の現場を想定し、自身が教師になったらどのような教育を行うかを日本語で説明させ、主に思考力・判断力を評価した。加えて、日本文化について英語で説明させる課題を英語論述とし、自らの思考力・判断力を英語でも表現できるかどうかを評価した。

＜面接試験・プレゼンテーションのポイント＞

面接試験は、英語によるものと日本語によるものの2本立てで実施した。

英語による面接では、短い文章を元に、（1）黙読、（2）音読、（3）内容理解とそれに対する自分の意見表明、という順序で行った。日本語による面接では、時事問題をめぐって、それに関する考えを発表してもらった。

教育学部 第三類（言語文化教育系）日本語教育系コース

本コースの「入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」に基づき、小論文と面接を行った。小論文は、まとまった分量の文章をもとに、受験者の読解力、思考力、表現力などを問うた。面接では、出願書類や配付資料に関して、複数の面接員からの質問に答えることが求められた。

＜面接のポイント＞

面接員との間で適切なコミュニケーションが取れること、質問を適切に理解し、自分なりの考えを自らの言葉で表現できること、論理的に話せることなどが重要です。準備してきた内容を話の流れに関係なく一方的に話すことは望ましくありません。



日本語教育系コースが求める学生像をアドミッション・ポリシーとしてまとめています。それをよく読んで、面接に臨んでください。

教育学部 第四類（生涯活動教育系）健康スポーツ系コース

＜小論文＞

小論文は、健康スポーツ系コースの学問を学ぶうえで必要な基礎学力を判断するために2問出題した。一つは健康やスポーツ、スポーツ選手、指導者に関連するテーマについて受験者の考えを問う記述式の問題で、もう一つは健康スポーツに関する英文の著書、論文、評論などの一部を全訳する問題とした。

＜実技試験＞

特定の運動・スポーツ種目において高い水準を持ち、入学後に大学スポーツ（課外活動を含む）の発展に貢献するなど、本コースが求める学生像をふまえ、実技実績に係る証明資料に記載されている内容の妥当性を評価するために、指定された種目の中からもっとも得意とする種目を一つ選び、その実技試験を実施した。

＜面接・プレゼンテーションのポイント＞

受験者は、面接準備室において課題（「スポーツはしばしば「する人・みる人・ささえる人」の3つの立場から成り立っているとされます。あなたはそれぞれの立場でどのようにスポーツと関わりたいと考えていますか。また、そのために大学で今後学びたいことは何ですか。」）を受け取り、プレゼンテーションの内容を考え整理した（15分）。その後、面接室において課題に対するプレゼンテーション（黒板や身振りの使用可）を5分間で行い、その内容や志望動機などについて口頭試問を受けた（プレゼンテーションの時間を含めて20分）。

教育学部 第四類（生涯活動教育系）人間生活系コース：学校推薦型選抜

＜面接＞

本コースの「アドミッション・ポリシー」である1) 高等学校段階で習得すべき家庭科の能力及び他教科での基礎的・基本的な学力、2) 人間生活に関する教育的課題や学問的課題を解決するために必要な、幅広い事柄に対する知的好奇心、問題を発見する観察力、問題解決に向けて思考し、表現する力、3) 自らの問題意識に基づいて、主体的に問題を探求し、広い視野を持って多様な人と交流するコミュニケーション能力を踏まえ、提出された出願書類をもとに個人面接（約15分）を行った。面接では、志望理由を含めて、本コースで学ぶことについての関心・意欲・態度を評価する質問を行うとともに、主体性・協働性を評価する質問を行い、それらの質問を適切に理解し、回答できるかを重視した。

教育学部 第四類（生涯活動教育系）音楽文化系コース

＜実技試験＞

①コールユーブンゲンの視唱、及び②選択した種目の演奏、の2つを課した。

＜面接試験・プレゼンテーション＞

第1面接室では、音楽と社会貢献に関する内容と、その考えに基づいた大学での学習に



対する意識について問う面接を行った（10 分間）。当該領域に関する知識の量、瞬時の対応力、コミュニケーション能力、論理的な表現力を評価の対象とした。

第 2 面接室では、社会一般の音楽シーンにおける現代的課題について考えを整理し、プレゼンテーションを行った（10 分間）。プレゼンテーションにはホワイトボードを使うことができる。感受性、発想力、表現力、説得力を評価の対象とした。

<面接試験・プレゼンテーションのポイント>

広く社会における音楽的事象について、本や新聞を読んだり、音楽の先生などと会話・議論したりするなどして、知識を増やし、多様な見方や考え方があることを知っておくとよい。また、「音楽」「音楽教育」「演奏会」「奏法」「演奏スキル」「音楽史」「西洋音楽」「日本音楽」「アンサンブル」などをキーワードにした本のなかから興味のあるものを選んで読むのもよい。そのなかで気になった点や話題になっていることなどを書き出し、それに対する自分の考えを書く練習をするとよい。書いたり議論したりする際には、根拠に基づき自分の考えを論理的に一貫するように主張することが重要である。

教育学部 第四類（生涯活動教育系）造形芸術系コース

最終選考において、小論文、実技、面接（プレゼンテーション含む）の各試験を行った。

<小論文、実技>

入試問題（過去問）を公表しているので、希望者は閲覧することができる。

閲覧方法は広島大学の公式ウェブサイトを確認してください。

<面接（プレゼンテーション含む）>

プレゼンテーションの準備を行ったのちに、一人当たり 20 分程度の面接（プレゼンテーション含む）を行った。大まかな内容は以下のとおり。

1. プレゼンテーションの準備（15 分）

待機場所で課題を提示し、用意された用紙を使ってプレゼンテーションのための構想を練る等の準備を行ってもらった。課題は、美術資料を用いてプレゼンテーションを行うという趣旨のもの。

2. 面接（プレゼンテーション含む）（20 分程度）

面接室で、OHC（実物投影機）を用いて、5 分程度のプレゼンテーションを実施してもらい、終了後、その内容について質問した。また、その後「造形芸術及び造形芸術教育に関する問題意識、意欲、関心、思考力、表現力、適性など」に関わる質問に答えてもらった。また出願時に提出してもらった「美術に関わる活動実績調査書」の内容についても質問した。

3. その他

- ・面接を実施する前に、OHC（実物投影機）の使用方法についての説明を行った。
- ・面接は、受験番号順に行った。
- ・受験者控室では、飲食物、本・雑誌等を持ち込んでよいこととした。



教育学部 第五類（人間形成基礎系）教育学系コース

＜小論文＞

教育に関連する文章をもとに受験者の意見を問う論述問題を出題した。論理的思考力、多様な視点から判断する能力、自分の意見を他の人に分かりやすく伝える表現力を評価の対象とした。

＜面接・プレゼンテーション＞

受験者は教育に関するプレゼンテーションの課題を与えられ、30分間でプレゼンテーション用の資料を作成した後、面接を行った。面接では、作成した資料を提示しながら1人3分のプレゼンテーションを行った後、それをもとに質疑応答を行った。

教育学部 第五類（人間形成基礎系）心理学系コース

＜小論文＞

心理学系コースの「アドミッション・ポリシー」を踏まえたうえで、心理学を学ぶための基礎学力、思考力、表現力などをみる問題を出題した。

＜面接＞

面接では、現代社会における「こころ」の問題に関する関心、知識、洞察力を把握し、思考力や論理的表現力について調べることを目的とした。その中で「こころ」に関わる資料を受験者に与え、それについての自分の考えを発表してもらった。その後、質疑応答を行った。面接は受験者1人ずつに対して行い、資料の提示から質疑応答までに要した時間は15分程度であった。



法学部 法学科昼間コース

<小論文>

総合型選抜 II型

論文・評論等を題材とし、法学・政治学・社会学を中心とした社会科学系の学問を学ぶ上で必要な基礎的学力をみる。

<面接>

複数の教員がアドミッション・ポリシーに合う意欲・能力を持っているかどうかを問う質問を行う。

総合型選抜 II型

修学に対する意欲，人間や社会に対する深い関心や問題意識，それらを論理的に表現・説得するコミュニケーション能力など。

総合型選抜 国際バカロレア型

修学に対する意欲，人間や社会に対する深い関心や問題意識，国際感覚，それらを論理的に表現・説得するコミュニケーション能力など。

法学部 法学科夜間主コース

<小論文>

総合型選抜 社会人型，フェニックス型

論文・評論等を題材とし、法学・政治学・社会学を中心とした社会科学系の学問を学ぶ上で必要な基礎的学力をみる。

<面接>

複数の教員がアドミッション・ポリシーに合う意欲・能力を持っているかどうかを問う質問を行う。

総合型選抜 社会人型

働きながら修学する意欲，社会人として人間や社会に対する深い関心や理解，それらを論理的に表現・説得するコミュニケーション能力，法学部で学ぶ知識を社会生活にどのように活かしていくか，など。

総合型選抜 フェニックス型

修学に対する意欲，人間や社会に対する社会人としての過去の経験に基づく深い関心や理解，それらを論理的に表現・説得するコミュニケーション能力，法学部で学ぶ知識を社会生活にどのように活かしていくか，など。



経済学部 経済学科昼間コース

総合型選抜 国際バカロレア型

＜出願書類＞

IB 最終試験 6 科目の成績評価証明書，志望理由書及び英語民間試験の成績証明書等（該当者のみ）を提出してもらいます。

＜面接＞

問題意識と勉学意欲を重視し，あわせて問題解決能力や議論する能力をみる質問をして適性を判断します。

経済学部 経済学科昼間コース，夜間主コース：学校推薦型選抜

＜出願書類＞

調査書，推薦書及び志望理由書を提出してもらいます。調査書は評定平均値が 4.0 以上必要です。また，推薦人数は昼間コースは 1 校 1 名，夜間主コースは 1 校 2 名まででした。

＜面接＞

問題意識と勉学意欲を重視し，あわせて問題解決能力や議論する能力をみる質問をして，適性を判断します。

経済学部 経済学科夜間主コース

総合型選抜 社会人型，フェニックス型

＜小論文＞

論文・評論等を題材とし，経済学・経営学を学ぶ上での適性をみる問題を出題します。令和 6 年度の問題は，「罰金と料金の区別」「ダイバーシティーとインクルージョンのビジネスへの影響」に関する問題でした。

＜面接＞

問題意識と勉学意欲を重視します。また，志望理由書は面接の参考資料として用います。

**理学部 数学科**

<筆記試験>

筆記試験 150 分で、数学の問題であった。数学の基礎知識・思考力・表現力をみる問題である。

<面接の内容・方法>

高校数学の基礎概念に関する課題を与え、それについて面接員が質問して、受験生が解答し、数学的な理解及びコミュニケーションがとれるかを判定した。

<合否判定基準等>

筆記試験と面接の総合点を主とし、調査書（調査書の全科目の成績と数学の成績を点数化）と志望理由（自己推薦書の一部）を加味した。

理学部 物理学科

<口頭試問>

物理と数学の基礎的な学力を問う問題を課した。

<面接の内容・方法>

複数の教員が物理学への関心度や進学希望動機などを尋ねた。また、身近な生活科学や自然現象等に関連した質疑応答を通じて、学習能力、思考能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を判定した。

<出願書類において重点を置いて評価した点>

調査書を参考にしつつ、自己推薦書において、物理学に対する興味や志望動機、及び、物理学に関する高校時代の特別活動を総合的に評価した。

<合否判定基準等>

口頭試問と面接による評価から適性が認められる者について、調査書を加味して判定した。

<受験者や高校教員に伝えたいメッセージ>

物理、数学、英語の基礎学力は入学後の学習に特に必要なもので、高校までに学ぶ範囲をしっかり身につけて欲しい。

理学部 化学科

<面接の内容・方法>

複数の審査委員による 1 人 30 分程度の面接を実施した。化学への関心度（高校時の化学に関する取り組みや興味）や入学志望動機に関する質問や、高校レベルの化学（無機化学、理論化学、有機化学）に関する知識・論理性等を問う質疑応答を行った。

<面接において特に重視した点>

志望動機、学習意欲、理解度、専門知識、独創性、論理性、表現力を総合的に重視して評価した。

<出願書類において重点を置いて評価した点>

成績優秀であることに加えて、化学の分野を学びたいという意欲、新しいことを切り開い



ていきたいという意欲をもっているか、という点を重視した。

< 合否判定基準等 >

第1次選考では、出願書類を総合的に評価した。

第2次選考では、面接による評価に出願書類の評価を加味して総合的に判定し、合否を決定した。

最終選考では、第2次選考合格者のうち、大学入学共通テストで受験を要する教科・科目の得点の合計が、概ね800点以上であった者を最終合格者とした。

< 受験者や高校教員に伝えたいメッセージ等 >

化学に関する事象に深い興味と探究心をもち、それらの機構や謎の解明に挑戦する意欲溢れる生徒の受験を期待している。

理学部 生物科学科

< 面接の内容・方法 >

複数の審査委員による1人30分程度の面接を実施した。生物学への関心度や入学志望動機に関する質問や、高校レベルの生物学に関する知識・論理性等を問う質疑応答を行った。

< 面接において特に重視した点 >

志望動機、学習意欲、専門知識、独創性、論理性、表現力を総合的に重視して評価した。

< 出願書類において重点を置いて評価した点 >

学業成績に優れ、特に生物を含む高校理科科目及び英語の成績が優秀であることを評価した。

< 合否判定基準等 >

第1次選考では、出願書類を総合的に評価した。

第2次選考では、面接による評価に出願書類の評価を加味して総合的に判定し、合否を決定した。

最終選考では、第2次選考合格者のうち、大学入学共通テストで受験を要する教科・科目の得点の合計が、概ね540点以上であった者を最終合格者とした。

< 受験者や高校教員に伝えたいメッセージ等 >

生物や生物が関わる自然現象に対する好奇心や探求心に溢れ、生物の謎に挑もうとする意欲ある学生の積極的な応募を期待している。

理学部 地球惑星システム学科

【一般型】

< 口頭試問 >

地球科学の専門及び関連分野の基礎知識と理解力をみるため、関連する物理学・化学を含む地球科学分野から問題を課した。

< 面接の内容・方法 >

勉強や研究をする意欲と能力を判断するための質問をし、適性等を総合的に評価した。



【日本地学オリンピック利用型】

＜口頭試問＞

地球科学の専門及び関連分野の基礎知識と理解力をみるため、関連する物理学・化学を含む地球科学分野から問題を課した。

＜面接の内容・方法＞

勉強や研究をする意欲と能力を判断するための質問をし、適性等を総合的に評価した。

＜面接において特に重視した点＞

地球惑星科学や災害・環境科学への興味・関心や論理的思考などを重視した。

＜出願書類において重点を置いて評価した点＞

調査書及び自己推薦書を偏りのないように評価した。

＜合否判定基準等＞

口頭試問、面接及び出願書類を総合的に評価し選考した。

＜入学までの教育＞

合格者には入学までに、高校で学習する数学、物理、化学、英語及び地学に関する課題を課し、レポート提出を課した。



医学部 医学科

総合型選抜 II型

＜小論文・面接の内容・方法，面接において特に重視した点＞

小論文では，英語の読解能力と科学的な思考力を点数化して評価した。面接では，課題に対するプレゼンテーションの内容と自己推薦書を元に，アドミッション・ポリシーに示された項目への適合性，研究志向を持つ医療人の育成を目指した MD-PhD コースへの進学の意味，科学的な学識の有無，及び論理性などの能力を重視して評価した。

総合型選抜 国際バカロレア型

＜面接の内容・方法＞

志望理由書に記載された内容も参考にしながら，アドミッション・ポリシーに示された項目への適合性，学識の有無，及び医療人としての適性を点数化して評価した。

医学部 医学科：学校推薦型選抜医学部医学科(ふるさと枠)

＜出願書類及び面接において特に重視した点＞

広島県の地域医療，特に県内中山間地の医療に従事する意欲を中心に，アドミッション・ポリシーに示された項目への適合性，地域住民や他の医療従事者と円滑な人間関係を構築できる協調性，及び奨学金返還免除要件となっている勤務を将来確実に遂行できる人物であるかどうかを評価した。

医学部 保健学科

＜面接の内容・方法＞

3名の面接者による。面接時間はおおよそ15分を目安。志望動機，専攻内容に関する知識，自己アピール，自己推薦書の内容に関する質問など。

＜小論文のテーマ＞

高齢社会や健康観に関するテーマ，医療や保健，福祉のあり方に関するテーマ，職業選択と意識についてのテーマなど。



歯学部 歯学科及び口腔健康科学科

総合型選抜 II型

<実施内容>

出願書類は、勉学を含む高校時代の活動状況、歯学部を志した動機、大学での学習に対する意欲等を重視して評価した。小論文は歯学科、口腔健康科学科共に各2問出題し、採点は学生募集要項の実施科目等の内容の記載に従って行った。

面接は、歯学科では受験者を多角的に総合評価するため、異なる3名により2回、計6名の面接員により行った。口腔健康科学科では、3名の面接員により面接を行った。両学科とも受験者の出願書類を参考にしながら質問し、評価は学生募集要項の実施科目等の内容の記載に従って行った。



薬学部 薬学科

＜面接の内容・方法，評価基準等＞

1人の受験者に対して，異なるメンバーによる2回の個人面接を実施した。一方では科学の知識を問う質問，もう一方では，薬学や薬剤師への関心を問う質問をした。面接では，相手の話を正確に理解できること，論理的な話し方ができること，広島大学薬学部で学ぼうとする意欲が感じられることなどを評価した。出願書類においては，本学部で学んでいく上で必要となる国語・英語・数学・理科の十分な学力が期待できることなどを評価した。

＜受験者や高校教員へのメッセージ＞

広島大学薬学部で学び，将来の日本の薬学を背負っていこうという意欲に期待しています。少数精鋭で薬剤師や創薬研究者をめざすグローバルな人材育成を行い，世界に通じるトップレベルの人材を輩出します。

薬学部 薬科学科

＜面接の内容・方法，評価基準等＞

1人の受験者に対して，異なるメンバーによる2回の個人面接を実施した。一方では科学の知識を問う質問，もう一方では，創薬研究や薬科学への関心を問う質問をした。面接では，相手の話を正確に理解できること，論理的な話し方ができること，広島大学薬学部で学ぼうとする意欲が感じられることなどを評価した。出願書類においては，本学部で学んでいく上で必要となる国語・英語・数学・理科の十分な学力が期待できることなどを評価した。

＜受験者や高校教員へのメッセージ＞

広島大学薬学部で学び，将来の日本の薬学を背負っていこうという意欲に期待しています。少数精鋭で創薬研究者をめざすグローバルな人材育成を行い，世界に通じるトップレベルの人材を輩出します。



工学部 第一類（機械・輸送・材料・エネルギー系）

＜面接の内容・方法＞

出願書類に基づき、科学技術・社会への関心、学習意欲などについて複数の面接担当教員が面接を行い、採点した。

＜面接において特に重視した点＞

アドミッション・ポリシーに真に適合した学生で、機械工学の分野を始めとした入学後の勉学に強い意欲を持っている点。

＜筆記試験の内容・テーマ＞

自然科学・技術に関する基礎知識（数学、物理などを含む）、論理的思考と表現力をみる問題を出題した。

＜出願書類において重点を置いて評価した点＞

自己推薦書の内容が、アドミッション・ポリシーと一致しているかを重点的に評価した。

＜受験者や高校教員に特に伝えておきたいこと＞

英語・数学・物理等主要科目の基礎学力が十分であると判断できることに加えて、第一類で学びたいという明確な意欲を持つとともに、進学後もその意欲に従って目標達成のための継続的努力を惜しまない学生を求めています。

工学部 第二類（電気電子・システム情報系）

＜出願書類の評価＞

高校で取り組んだ内容、志望動機や将来の目標、問題着眼点や発想力、文章力などについて評価した。

＜小論文の内容・テーマ＞

数学と物理に関する論理的思考力を確認する記述式問題を出題した。

＜面接の内容・方法＞

面接では、勉学に対する意欲や適性をみる質問ならびに数学と物理の基礎学力をみる試問を行った。

＜受験者や高校教員に特に伝えておきたいこと＞

第二類で学びたいという強い意欲や情熱が最も重要ですが、入学後の専門分野の学習に支障のない基礎学力も必須です。また、大学入学共通テストの得点を最終合格者決定の判断基準に用いていますので、学力向上を怠らないでください。

工学部 第三類（応用化学・生物工学・化学工学系）

＜出願書類の評価＞

調査書で高校時代の基礎学力を、自己推薦書でアドミッション・ポリシーとの適合性をそれぞれ評価した。

＜受験者や高校教員に特に伝えておきたいこと＞

第三類で学びたいという強い意欲と情熱を持ち、化学、英語及び数学について基礎学力を



しっかりと身につけていると共に、入学後も勉学・研究への努力を継続できる学生を求めています。総合型選抜Ⅱ型では、小論文・面接は課されません。出願書類（調査書及び自己推薦書）と大学入学共通テストの成績順位を総合的に評価し、大学入学共通テスト後に合否を判定します（出願書類のみによる選考は行いません）。調査書と大学入学共通テストで基礎学力を、自己推薦書でアドミッション・ポリシーとの適合性をそれぞれ評価します。課外活動や化学に関する優れた業績は必須ではありません。必要な基礎学力を有し、アドミッション・ポリシーが一致する勉学意欲が旺盛な人を求めています。

工学部 第四類（建設・環境系）

＜出願書類の評価＞

自己推薦書の内容が、アドミッション・ポリシーと一致しているか重点的に評価した。

＜面接の内容・方法＞

調査書、自己推薦書を参考にして、小論文、面接内容を複数の教員が採点した。

＜受験者や高校教員に特に伝えておきたいこと＞

第四類では、工学分野において必要な基礎学力はもちろんのこと、建築・社会基盤分野に関する勉学意欲が旺盛であり、この分野で社会に貢献したい人を求めています。入学後、この専門分野を学ぶために必要な基礎学力（特に数学、物理）は必須条件となります。

第四類では、2年次進級時に建築プログラム、社会基盤環境工学プログラムのいずれかの教育プログラムに配属されます。配属は、本人の希望と1年次の成績により決定され、選抜方式（広島大学光り輝き入試、一般選抜（前期日程・後期日程））による配属ルールの違いはありません。

＜その他＞

スポーツ・文化活動で良い成績を挙げた学生よりも、第四類の分野で優れた才能を発揮する学生を求めています。



生物生産学部 生物生産学科

総合型選抜 II型

【セミナー受講型】

<セミナー>

生物生産学部に関連する 2 つのテーマについて、パワーポイントを用いてそれぞれ短い講演を行い、趣旨の理解力と問題展開の能力を評価するためのレポート作成を課した。

<面接>

一人あたり 15 分程度の面接を、複数の面接員との質疑応答で実施した。

【課題研究評価型】

<課題研究発表，質疑応答>

これまで取り組んできた課題研究を PDF ファイル（スライド枚数 10 枚以内）にまとめたもの（11 月上旬に事前提出）をもとに 10 分以内で発表後，20 分程度の質疑応答を行った。

【受験者や高校教員に特に伝えておきたいこと】

「セミナー受講型」，「課題研究評価型」については，以下の URL もご参照ください。

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/seisei/A0>

総合型選抜 フェニックス型

<面接>

志望理由書を参考資料として用い，一人あたり 30 分程度の面接を，複数の面接員との質疑応答で実施した。

生物生産学部 生物生産学科：学校推薦型選抜

<セミナー>

生物生産学部に関連する 2 つのテーマについて，パワーポイントを用いてそれぞれ短い講演を行い，趣旨の理解力と問題展開の能力を評価するためのレポート作成を課した。

<面接>

一人あたり 15 分程度の面接を，複数の面接員との質疑応答で実施した。



情報科学部 情報科学科

総合型選抜 II 型

＜出願書類の評価＞

志望動機や将来の目標，高校で取り組んだ活動内容，調査書の内容等について，評価した。

＜筆記試験の内容・テーマ＞

「数学」と「情報」に関する論理的思考力を確認する記述式問題を出題した。特に「数学」では，高等学校で習う数学Ⅰ・数学Ⅱ，数学A・数学Bの中から，情報科学に深く関わる数学の内容を重視した。「情報」に関しては，高等学校教科「情報」の内容を考慮した出題を行った。

＜面接の内容・方法＞

面接では，志望動機，近年の情報科学のトピックスに関する質問を行った。

＜受験者や高校教員に特に伝えておきたいこと＞

日頃から情報科学分野に関する興味・関心を持ち，様々な活動を通し，学ぶ意欲を育むことが肝要です。一方，大学入学共通テストの得点に合格基準点を設けているので，基礎学力を身に付けることも不可欠です。

情報科学部 情報科学科：学校推薦型選抜情報科学部情報科学科（地方創生枠）

＜出願書類の評価＞

志望動機や将来の目標，高校で取り組んだ活動内容，調査書の内容，オンデマンド講義レポート等について，評価した。

＜筆記試験の内容・テーマ＞

情報科学を学ぶ上で必要な数学的基礎力を確認する問題として，オンデマンド講義（線形代数学：ベクトル，行列，行列式，連立1次方程式）の内容を出題した。

＜面接の内容・方法＞

面接では，志望動機，デジタルトランスフォーメーション（DX）推進に関する質問を行った。さらに，与えられた短い英文を読んでもらい，その内容に関する質疑応答を行った。

＜受験者や高校教員に特に伝えておきたいこと＞

情報科学分野への興味・関心に加えて，広島県におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）推進に強い興味・関心を持ち，広島県に定着する意思を持つ学生の受け入れを目的としています。また，短期間のオンデマンド講義での数学的内容の理解，及び英文の読解力も求められます。